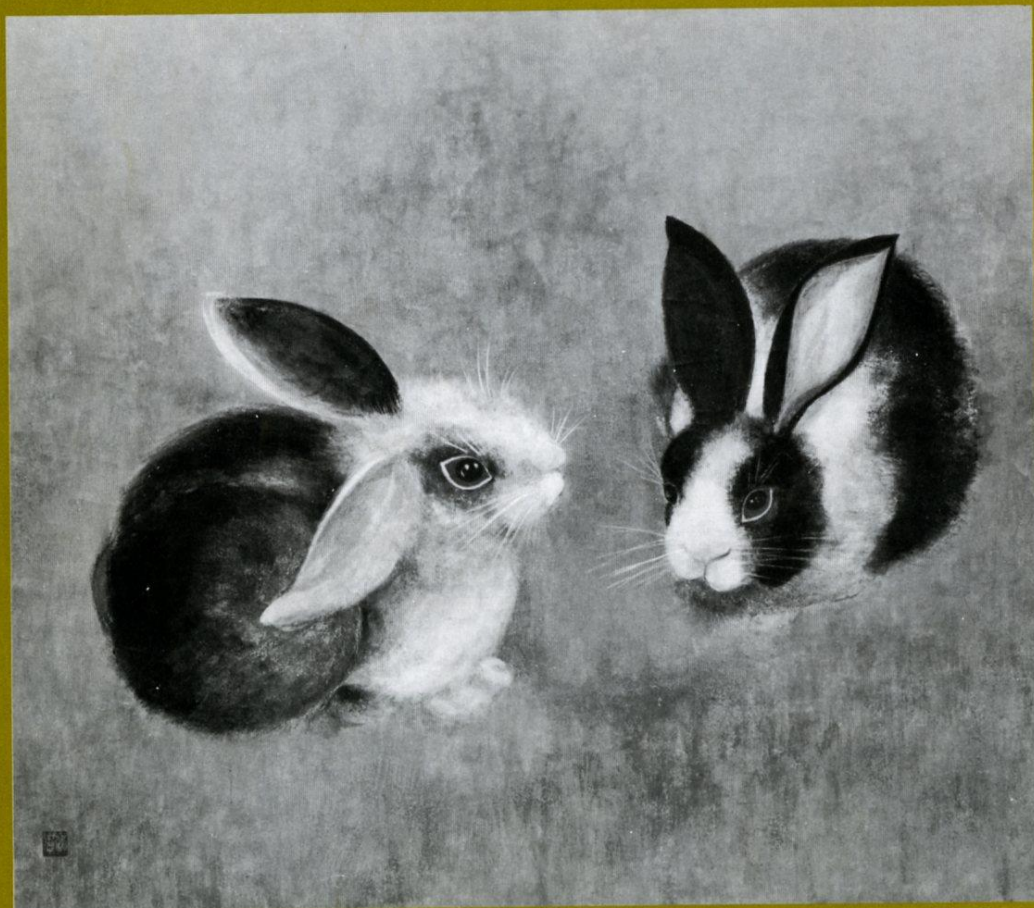


# 山崎町文化

'99-2 \*No.18



山崎町文化協会

# 技術の進歩と文化活動

山崎町文化協会会長 壺 阪 壽

現代社会は大変な技術の進歩の渦中にあります。一寸私達の日常生活を見ても、ついこのあいだ出現して使われ始めたかと思っ  
ていたらもうすっかり我々の生活に溶け込んでいるものが随分  
あります。

街を歩きながら携帯電話を掛けている人をたくさん見かけま  
すし、電車の中でもよくそんな光景を見ます。

又ファックスにしてもそうで、色々な書類又は案内等もこれ  
を使ってどんどん入ってきます。その外ワープロにしてもそう  
ですし、数えればいくらでもあります。

このように現代社会は技術の進歩によって大変便利で迅速に  
物事が出来るようになりました。

然し乍ら物事には何事でも光の部分と陰の部分とがあるよう  
に技術の進歩にもそういうことが発生することは避けること  
が出来ません。もっと人間的温かさとか、人と人とのゆたかな  
絆を創るといった事がなければならぬのです。

地域文化の活動ということは文化のもつ温かさによって人と  
人との絆をより一層深くし、人間としての日常生活の豊かさも  
増してゆきます。

そういった視点からも地域の文化活動ということは大変重要  
であり、特に「やまさき文化」は傘下各グループの活動状況が  
掲載されていますのでどんな活動をしているのか、よく分かり  
ますし、又会員の投稿等もありますので町民の皆様幅広く読ま  
れることを切望して止みません。



## 技術の進歩と文化活動

### 目次

山崎園齋と保科正之	壺 阪 壽	2
当世大学事情	浅田 耕三	3
染める心・生きる力	湯野 勉	7
短歌	杉山真由美	8
俳句	稲村 幸子	10
謡曲について	山口 栄子	12
第一の人生を終えて	鶴崎 和美	14
植物観察会に行きませ	植田 國男	14
福井真知子	福井真知子	15
春名 愛子	春名 愛子	15
後藤 一孝	後藤 一孝	15
保存芸能の奉仕活動一筋	志水 正信	16
山崎町での人との出逢い	千田 淳平	17
太鼓つれづれ	森下 昌	17
さらば 法務局(登記所)	織金 義雄	18
冊子「しその文化財」発刊にあたって思うこと	河本 雅規	18
ふれあい	山口 澄代	19
楽しみな定期演奏会	井上 瞳	19
尺八と我が人生	石野 和雄	20
浅野長矩侯を頌える	小川 登	20
山崎町花 サツキを想う	春名 豊明	21
何を表現するか	福岡 久藏	21
感謝、感謝の十周年記念チャリティコンサート	志水 吉博	22
山崎音楽の友「夏の集い」について	藤井 慧乗	22
さつき民踊グループに出会えて	安川英美子	23
山崎町文化団体名及び所属会名	河本 雅規	23
事務局便り	荒木 俊介	24
編集後記	神名 彰子	24
表紙画/カット/表紙題字	尾崎 正一	24



# 山崎闇齋と保科正之

山崎文学会 浅田耕三

慶応四年八月二十三日、薩摩、長州以下諸藩混成の官軍が会津城下へ乱入した。

それからの一カ月間の鶴が城籠城戦に見せた会津武士の果敢なたたかいは、武士道の真髓として当時の人々に深い感銘を与えたい。

それはいまだに「会津士魂」と呼ばれ、多くの歴史文学などに描かれる。

勝者の官軍が踏み込んだ武家屋敷の奥座敷、一例を挙げれば藩家老西郷頼母の家では七〇歳の老婦人から二、三歳の童女に至るまで、死装束を身にまとい、一部屋に六七人が喉を突いて自害していた。子供は無論母が刺し、老女も若い女が手を添えているのである。

そんな状況が次々と記録に出てきて、私達は疎然たる思いに打たれる。

慶応四年正月一日から始まった鳥羽伏見のいくさから、江戸城開城、上野彰義隊、奥羽戦争と勝に奢り、カサにかかって襲いかかってくる官軍に対し、孤軍の会津はまさに絶望のいくさであった。

にもかかわらず会津武士とその家族をこれ程まで果敢にたたかさせたものは何であったか。それはただ一つ、会津武士の誇りであった。

その誇りを築き上げたものは、この時代、全国諸藩の中でも最高レベルであった会津藩の教学、つまり藩校「日新館」の教育であった。「日新館」とは、中国の古典『大学』の中の「日々ニ新タニシテ又日々ニ新タナリ」という言葉からとられている。

会津藩士の子弟は十歳になれば、強制的にこの藩校に入学させられていた。つまり義務教育であった。授業料、入学金は免除で、その費用は藩が負担し、教科書も日新館構内に開板方という出版印刷局があって、藩士に安価で提供できるようになっていた。

そして江戸の和田倉藩邸には成章館、芝の藩邸には考興館を設けて在府藩士の子弟

の教育をも奨励していた。

幼少年に授ける初等教育は素読所といい、そこを卒業すればさらに講釈所に入りより高度な学問を身につける。その上には専門的なコースとして書学寮、和学方、数学方、天文方、医学寮などがあつた。

ところで、制度の上でも内容的にもこれ程充実した藩校をもち、藩士の知的、精神的向上に勤めた、この時代としてはまことに稀有ともいえる教育重視の会津藩二十三日を立藩したのは保科正之という人物である。

正之は徳川三代將軍家光の弟である。二代將軍秀忠は、多くの側妾をもっていた父の家康と比べると、随分儀儀のよい、真面目な人物だったらしく、生涯正妻お江与の方以外の女性は僅か一人だけで、その結果生まれたのが正之であった。母は、秀忠のお側付きの女中である。

將軍や大名家における正妻と側妾の身分は厳然と分けられていて、それは嫡子と庶子においても同じだった。

権勢家というものは自分の地位をおびやかす位置にいるものに、強い警戒心、猜疑心を抱くもので、家光もその例に洩れず、実の弟忠長を追いつめて自害させているが、庶腹の正之も僅か七歳で信州高遠の三万石の保科家へ養子にやられている。そして寛永八年（一六三一）二十一歳で彼はこの養家を継ぎ高遠城主となった。

兄は將軍で弟は三万石の領主である。警戒されたのであろう。

しかしこの正之は忠長とは全く違い、謙虚で篤実で警戒の要などさらない人物だった。第一に学問好きであり、当代第一級の文化人であった。幕府に対する忠誠心もきわめて強く、ために家光の信頼はにわかに深まり、五年後の寛永十三年二十六歳で出羽国村山郡最上の鳥居家の領主二十万石を与えられた。

さらに寛永二十年（一六四三）には会津二十万石に転封、別に南山五万石幕府領をも預けられた。

家光は臨終に際し、わが子の四代將軍家綱の補佐役を正之に依頼した。その遺命にしたがい、正之は將軍補佐役として幕政に参与し数々の実績を挙げた。例えば、殉死の禁止に力を尽くしたことなどはその人間味の豊かさを示すものだがこの大役に加えて、彼には奥羽鎮護という使命があつた。

会津のまわりには、仙台の伊達、秋田の佐竹、米沢の上杉といった戦国以来の雄藩があり、会津藩はそれら外様藩の中に舞い下りた徳川御家門であった。

しかも正之の家臣団は、信州高遠の保科家の家来も鳥居家の遺臣も、それから廃藩となった前の会津藩主蒲生家や加藤嘉明の家来も大量に入っていた。

こんな事情をかかえた大名家にとって一番の難題は、その寄せ集めの家来間の融和である。

戦国期から江戸初期の武士には、武を誇るあまり、行政や算勘、経済政策に長けた武士を軽侮する偏狭で意固地な気質のものが多かった。特に会津武士のように諸家から集められた武士には独立自尊の気風があって、競争意識のみつよく、他と協調することを知らない人間が多数いた。

山崎藩池田輝澄が折角佐用平福を併合して六万三千石を領しながら一代で瓦解したのも家来間のこの軋轢である。この事件は江戸初期でしかも山間の小藩が舞台だったから、あまり世に知られていないが、記録をよんでみるとずい分酷薄な幕府の処分だったらしい。

さて、話を戻すが会津藩の寄合い世帯の融和統一を図るにはどうすればよいか。それは心の教育である、と正之は考え、心の教育を儒教の教えに求めた。

すなわち山崎闇齋の朱子学である。

朱子学には林羅山や藤原惺窩の京学派と土佐に興った南学派がある。その南学派の第一人者山崎闇齋は、わが山崎町の出身である。

生まれたのは、京都下立売だが、曾祖父の山崎浄泉が山崎に住み、祖父浄栄は山崎で生まれて、姫路城主木下家定に仕えていた。

屋敷は今の鹿沢の闇齋神社のあたりにあったらしい。父の浄因も生まれは京都だが、龍野城主で家定の嫡男勝俊に仕え、当時勝俊は山崎も治めていた。浄因は関ヶ原以後備中足守城主となった家定次男利房にも仕えている。

この頃は父祖の地をもって自分の出身地としたから、闇齋は、人に語る時「私の生国は播州山崎村です」と名乗った。

保科正之もその伝記『山彦伝記』の中で、「壘石衛門（闇齋の通称）は山崎の人」と記している。

闇齋は子供の頃は随分腕白坊主だったという。そのせいか、六歳の時比叡山延暦寺へ侍童（稚児）に上げられた。十五歳で禪宗妙心寺派の本山妙心寺へ移るが、その頃から秀才ぶりを発揮して難解な仏教書を読みこなしていたという。

当時、妙心寺には土佐藩主山内一豊の異母兄にあたる人がいた。この人物の詳細は伝わっていないが、おそらく庶腹だったのであろう。山内一豊は例の「一豊の妻」の逸話をのこした人で、関ヶ原役後、遠州掛川の領主から大抜擢されて土佐一国の国守となった人物である。

闇齋の異才ぶりを見たこの一豊の兄が、闇齋を山内家の菩提寺である土佐の吸口寺の住職に招き、闇齋は受諾して土佐へ渡った。

土佐には谷時中というすぐれた朱子学者がいて多くの門弟が学んでいたがその一人に土佐藩家老で、経世済民の名家老の名の高かった野中兼山がいた。明石の生まれで、卓抜した事業家でもあった兼山は、土佐に多くの殖産事業を興した人である。紙数の関係でその業績は割愛するが、この兼山に勧められて闇齋は谷時中に朱子学を学ぶ。元々頭脳明晰の上に気質も烈しくて行動型だったから、観念的な宗教より学問に向いていたと思われる闇齋は、還俗して学者となった。二十九歳であった。

やがて朱子学者として名を知られるようになった闇齋は三十八歳で京都に出て学塾を開く。門弟はたちまち増え、塾の建物は増築工事に追われる繁昌ぶりだったらしい。

四十一歳で初めて江戸に出た闇齋は書肆（本屋）の二階に下宿して学問を教えた。京では名の通った闇齋も、情報未発達時代の江戸では無名で門弟も少ない。が、どこで聞いたか、常陸笠間六万石の藩主で幕府の寺社奉行を勤める井上正利という大名が使いをよこして笠間藩上屋敷へきて、自分に学問を講せよといってきた。

闇齋はことわった。「学問を学ぶのに師を呼びつけるとは非礼ではないか。学びたければ自分の方からくるがよからう」

そしたら井上正利もなみの大名ではなかった。尤もだ、と思い自分から本屋の二階に出かけてきて下座にすわり、師弟の礼を尽くして教えを請うた。

武士社会では、学者というのは極端に冷遇されている。城中の小間づかいの茶坊主を「お伽者」というが、学者もそう呼ばれ、学者といえは薄給で貧乏者の代名詞であっ



た。

徳川六代將軍に仕え、幕政に多くの功績をのこしたほか一流の文化人でもあって『藩翰譜』や『折焚く柴の記』などの名著をあらわした新井白石ですら禄高は一千石であった。この白石が学者仲間では出世頭なのである。

三千石五千石の大身旗本や各藩の家老級と比べると白石程の大学者も禄高だけは大了したことはない。前述の野中兼山は一萬石、上杉家の家老直江山城はかつて三十萬石だったのだから、いかに学者が冷飯を食わされていたかがわかる。

この学者の貧乏は平安貴族社会でも同じだったらしく、『源氏物語』の「乙女」の巻に光源氏の息子夕霧が大学寮へ入学する時の源氏の邸の描写にそれがよく出ている。

だから大名の招きを平然と断つたこの時の闇齋の対応が評判となった。保科正之がそれをきいて闇齋に興味をもち、自分も教えを受けてみてすっかり闇齋に敬服した。

ここから二人の師弟水魚の交わりが始まる。時には師弟であり時には親友であった二人の交際は正之の死まで続いた。正之と相知って以後、闇齋は京で半年間教え、半年間は江戸の塾で教えるという生活を十五年間続ける。その間正之の本国会津も訪ねている。

朱子学者闇齋の名が全国に知られ、六千人という他に例をみない多数の弟子をその間に集めたのは、その学識の深さや理論の明快さ、教育者としての卓抜した技量のせいであつたらうが、一つはこの天下の大老職保科正之との親交のせいであつた。

朱子学というのは、孔子孟子の学問思想を基本にした実践道德の学問である。

中国の北宋末期、西暦一一一五年頃に中国東北部に「金」という国家から誕生した満洲族が興り、武力を以て黄河を越え次第に南進して中央の宋王国を圧迫した。宋は支え切れずに長江から南へのがれた。のちに中国全土を制覇して清朝を築いた満洲族もこの同系である。

黄河や揚子江の古代文明を繁栄させてきた誇り高い漢民族から見れば「金」は北東の蛮族であつた。漢民族には中華思想がある。日本もチベットもモンゴルもベトナム、タイもトルコ、イランもその方位によってそれぞれ東夷、南蛮、西戎、北狄と称した。さすがに文字の生まれた国で「夷、蛮、戎、狄」はすべて「エミシ」であり野蛮人という意味である。

誇り高い漢民族にとってその野蛮人に圧迫され江南まで追いやられるのは実に我慢ならぬことであつた。宋王朝はここで一番国民を奮立たせ「金」の圧力をはねかえさねばならない。民族精神を鼓舞しなければならなかつた。

そこで活躍したのが学者の朱熹（朱子）であつた。

かつて孔子は、五経の一つ『春秋』を編述したが、朱熹はその例にならって司馬光の著書『資治通鑑』の要点をひきぬき、これを整理系統化して『通鑑綱目』を著した。これが大義名分論であり宋王朝正当論である。

その理論によれば、正統の天子は「絶対善」であり、それに忠節を尽くすものをも善とした。その正統の天子と反逆を企てる覇者との正邪を峻別したのである。

この朱熹の思想が平安末期日本へ入り、最もこれを信奉したのが、南北朝の後醍醐天皇とその側近の公卿たちである。すなわち朱子学は南朝正当論のよって立つべき学説となつた。

北畠親房の『神皇正統記』もこの朱子学に基づいているし、水戸光圀の『大日本史』も同様である。

戦前戦中に小学校教育を受けた私たちの習つた日本歴史はこの水戸史観であつた。水戸史観というフィルターを通してみると、南北朝の争いは血沸き肉躍るドラマである。正統の天子が衰微し滅亡の危機に陥る悲愴美がある。

保科正之はこの朱子学の「義」と「理」を基本とした五常五倫の実践哲学により藩の和合をはかり藩政を行なつた。正之がもう一人師事したのは神道家の吉川惟足で、藩の方針を皇室の尊崇と徳川家への絶対忠誠とした。

正之は『会津風土記』など、『五部書』を編纂して日新館の子弟教育の教科書としたが、これらの本は、必ず風呂敷に包んで帙に載せ、畳にじかに置くことを厳禁したという。

また寛文八年（一六六八）には「家訓」十五条を起算し山崎闇齋がそれに文章体的裁をととのえた。

これは会津藩の憲法ともいふべきものだがその第一章には、会津藩主たるもの、徳川幕府への忠誠を第一とし、他国はいかにあろうとも、徳川家へ二心を抱くべからずと厳しく定めている。会津藩主にしてもしこれにもとる者が

ある時は、それはわが子孫にあらざるゆえ、家臣はその君主にしたがう要なし、と記す。

第二条は武備を怠るべからず、であるが、この立藩の精神に忠実であろうとして、幕末松平容保とその家臣団は、戊辰役最大の悲劇に見舞われることになるのだ。

山崎闇齋は教師としては随分厳しい人で、いつも檉の棒で教卓を打ちながら講義した。大名といえども受講の態度が悪ければ大声で叱責した。佐藤直方という、後年有名な学者となる人でさえ、おそろしくて講義中、顔をあげて先生を見ることはできなかったという。

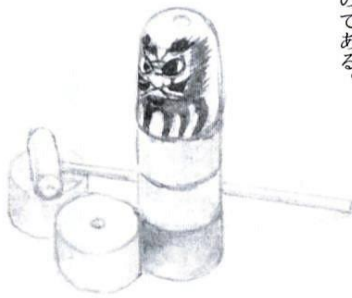
それでも門弟は、掛値なしに六千人にも上り、闇齋の死後その門流・崎門派は儒学の一大学派となる。

保科正之が亡くなった時、闇齋は葬儀に会津まで行き、以後は江戸の会津藩屋敷にも出入りしなかった。愛弟子のいない屋敷の寂寥に堪えられなかったのである。

朱子学は観念的思弁的で、実生活の生きた道徳や思想にはならない、孔子孟子の聖教こそ学ぶべき道、と『聖教要録』という書物を出版して朱子学を批判した山鹿素行を誹責処分して十年間赤穂に配流したのは、時の大老職保科正之といわれる。

おそらくそうであろうが、素行の兵学は学問としての系統的理論は乏しく、その説の理論は多分に朱子学に負ぶさっているといわれる。

闇齋が愛弟子正之を得たのは、決して偶然ではなかったろう。同時代に生まれた二人は師弟となり、盟友となるべき必然があったのである。



## 第二十回春の芸能祭ご案内

日時 平成十一年五月十六日(日)

午前十時から

午後三時まで

場所 サンホールやまさき(山崎文化会館)

主催 山崎町文化協会

山崎文化会館

後援 神戸新聞社・山崎町教育委員会

会員の日頃の練習の成果を、ぜひご覧くださいませよう、  
ご案内申し上げます。

### 参加部門

山崎詩舞道連盟  
山崎謡曲同好会  
山崎郷土芸能保存会  
山崎邦楽邦舞研究会  
さつき民踊グループ  
播州山崎太鼓  
バンブー・ファイブ  
山崎町老人大学



# 当世大学事情

龍谷大学教授

湯野 勉 (山崎町中比地出身)

私は、京都の龍谷大学に五年前から勤めています。龍大は西本願寺の学寮として設立されて以来、三六〇年になります。現在では七学部一短大、学生総数一万八千人を擁する中堅の総合大学です。兵庫県下の私大へも、非常勤講師として出講しています。私は実業界出身のいわば社会人教員で、本物の大学人ではありませんが、当世の大学事情について、私なりの見方を述べてみたいと思います。

まず、最近の大学生は勉強しないと、大学は遊園地化していると言われるが、私は必ずしもそのようには思いません。今も昔も、勉強以外が中心という人達がいることは事実ですが、熱心に勉強している学生さんは多いのです。

私は九時に始まる第一講時の講義をもっています。学生さんは概して朝に弱いのですが、九時までに大多数が出てきてくれます。遠距離通学生も多いので、六時すぎには家を出るといふ人も何人か知っています。大学では、昔から定刻には始まらないという伝統がありますが、朝九時というのは実社会の標準では十分遅い時刻ですし、早く来た人が損をするようではモラルハザードを招きますので、私は講義でもゼミでも定刻に始まります。講義の後には、質問者の列ができます。大抵は極めて的確な質問をします。

## キャンパス風景



外国人留學生が特に熱心です。中国からの留學生が多いのですが、経済的に困難な中でよくがんばっています。講義でも前列中央は、いつも留學生のグループが占めています。四十年、五十年前に欧米に留學した日本人學生を見る思いです。

學生さんは人前ではあまり発言しません。私は自己主張の強い欧米人とききあってきたので、よい感じののかも知れませんが、大へんひかえ目でおとなしいです。レポートなどはしっかり書けるのに、

口頭でのプレゼンテーションには慣れていないのでしょうか。的確なプレゼンテーションができるよう、ゼミなどで習練を積むことは、就職の面接でも、社会に出てからも、大事なことといつも言っているのですが……。

一九九八年一月に、経済学部の學生さん達が主催して、タレントの越前屋俵太氏をゲストに招き、學生さんと教員とがそれぞれの要望（経済学部らしくデマンド＝需要といっていました）をぶつけ合う公開討論会を開きました。私も教員側のパネリストの一人に引っぱり出されました。學生さん側から活発な発言が出るかどうか、十分な集客ができるかどうか、内気がかりでしたが、學生さん達の発言はフロアーからも続出、また七百人人入の大教室に立見が出る盛況で、大へん有意義なイベントだったと思います。人前で発言しなかったという私のイメージとは違った印象でしたが、プレゼンテーションができる學生さんも結構いるということでしょうか。

學生さんのデマンドのなかで一番強かったのは、関心と興味のもてる、面白い講義をやれということでした。至極もったもなしです。私たちも、そう心がけていますし、科目ごとに「授業アンケート」をやっているのですが、やはり需要と供給にミスマッチがあるようで、教員側もいっそうの工夫をしなければなりません。

大学にとって學生さんは顧客です。顧客に満足していただく、すなわちカスタマー・サティスファクション(CS)ということとは大学の経営のうえでも大事なことです。ただ大学のCSは、単に現在の在學生に評価されるだけでなく、卒業後五年、十年たつて、あの大学に行つてよかったと思つてもらえることであり、そのような卒業生が社会の各分野で評価されることではないかと思つています。私は学部代表の就職委員をしていますので、求人への依頼に会社回りなどもしますが、卒業生が評価されている話を聞くのは、うれしいことです。

大学では、まだ「バブル」が続いています。十八歳人口は既に減少していますが、進学率の上昇でカバーされた形で、現在は各大学とも在學生の数は多いし、入学志望者は一時より減少しましたが、全国ベースでまだ定員を上回っています。しかし少子化はさらに進みますので、すでに二人一人という進学率が頭打ちになれば、大学全



湯野ゼミ

入時代となり、淘汰される大学もでてくるといわれています。

各大学とも、生き残りをかけて改革・改善にとりこんでいます。龍大でも、いろいろな改革を行ってきましたし、今後も進めま

私は自己点検評価委員もやっていますが、やはり社会に評価され、学生さんが行きたいと思いで卒業してからも行ってよかったと思ってもらえるCSが基本ではないかと考えています。

当世の学生さんに、ちょっと甘い評価になったかも知れませんが。外部から見るとは、ちゃんとやっている学生さんが多いし、大学もいろいろ考えているということをお伝えしたかった次第です。

(一九九八年十一月十日)

## 染める心 生きる力

染色家・嵯峨美術短期大学講師

杉山 真由美 (山崎町出身)

川床に潜ってきれいな色の石を拾ったり、タオルでめだかを掬ったり、大きな岩から飛び込んで泳いだりした掛保川の清流、枯葉の下から松茸を探し出して籠いっぱい採った山の土の湿った匂い、花を摘んでは繋ぎ合わせて冠を作ったれんげ畑のピンクの絨毯、近くの小川で捕った螢を葱坊主の中に入れて楽しんだ黄緑色の妖しい光、一夜にして現れた白銀の別世界に驚き、はしゃいで作ったかまくらや雪だるま、蓬を摘んで母に作ってもらった忘れがたい草餅の味、可愛がっていた犬やうさぎ、文鳥などの動物たちの温もり、このように挙げていけばきりが無いほど子供の頃の私と自然の関わりが愛おしく思い出されます。

そんな故郷が今の私を育ててくれたのでしょうか。

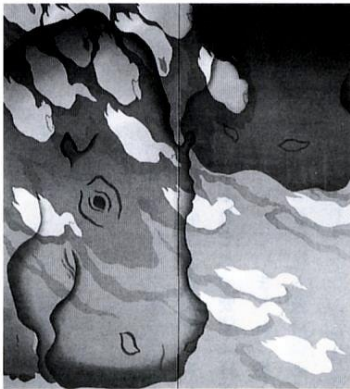
### 筆者のプロフィール

1955年(昭和30年)山崎高等学校卒業。神戸大学経済学部を経て、東京銀行(現東京三菱銀行)に勤務。同行取締役を経て、1994年から龍谷大学経済学部教授。「国際金融論」担当。著書に『国際金融市場』(共著、有斐閣)、『金融リスク管理と銀行監督政策』(有斐閣)など。

受験勉強に目的を見出せず、何に熱中するでもなく、高校時代を無気力に過ごしてしまった私が、着物という唯一身近なキーワードを頼りに京都で染色を学ぶ道を選んだのは、自分自身の直感によるものでした。学ぶことのすべてが新鮮でもしかなかったと記憶しています。夢中で学ぶうちに、自分に合った表現方法をいつの間にか選択していました。型紙と防染糊を用いて染める型染の、窮屈とも言える制約の中で色や形を練ることのおもしろさに惹かれ、その制約ゆえに生まれる明快な形の力強さと、染料の透明な美しさに、大きな魅力を感じたのだと思います。

今も変わらず、山や草花や動物などの自然を題材に、布を染めることで自分の内なる世界を表現しています。型染を得意としていますが、表現する内容によっては蠟染を用いたり、シルクスクリーンを併用することもあります。染色という点で、友禅などの着物を連想される方も多いと思いますが、私の場合着物はむしろ少なく、染めたものをタプローと同じ感覚で屏風や額に仕立てて発表しています。

何かおもしろい題材はないかと、植物園や動物園に出かけてスケッチをすることもあれば、自宅の窓ガラスに止まってこちらを覗き込んでいる蠟螂のユーモラスな姿を見つけて、その動作のいろいろを描いてみたり、散歩の途中で見かけた落ち葉の色の美しさを写し取ったり、そんな風に出会った感動をもとに作品づくりをします。自然を題材にしている私にとって、写生は欠くことのできない大切な要素です。表面的な形を写すのではなく、何枚も描くうちにそのものの内包する本質を掴みとることを心掛けています。



遊

写生したものがそのまま作品になることは少なく、どう展開すればよいか、いつも頭の隅のどこかでぼんやり考えていると、何かの拍子にアイデアが浮かんできます。メモ程度の小さな紙に、色鉛筆や絵の具を使ってエスキースを何枚となく描きます。次第に構図や色が決まっていきます。小下絵が描けると、原寸の草稿にかかります。木炭での下描きに、墨汁やカラーインクで色を付けます。生



きた線が描けず、何度となく紙を貼り替えては描き直すことを繰り返します。時には描いている時間より眺めている時間の方が長いこともあり、一番苦しい工程でもあります。

草稿ができると、斑なくきれいに染めるための布の前処理や材料の下準備に入ります。畳二枚ほどの大きな作品をつくるのが多く、どの作業も根気と体力を要し、中には煩わしいと感じる工程もあります。特に、糊を彫ったり、糊を置いたり、刷毛で染めたりは、やり直しのきかない一発勝負の緊張感も合わせて、染ならではの醍醐味と言えるでしょう。染料を固着した後の水洗いの工程では、糊の下から鮮明な色や形が現れる瞬間を、不安と期待がない混ざった気持ちでわくわくしながら待つのも楽しみです。水の中の布が少しの汚れもなく、瑞々しく美しい色を見せてくれた時の喜びは、経験した者にしかわからない感動でしょう。

出来上がった自分の作品の前に立つのは、気恥ずかしくも晴れがましい気持ちです。思うようなものはなかなかつくれず、またそれが次の作品を生む原動力ともなります。長年、染めた布のほとんどを屏風や額の平面タプローとして仕上げてきましたが、これからは、布の風合いを生かした作品のあり方も考えていきたいと思っています。そして、簡潔な形の力強さと透明な色彩の美しさを合わせ持ち、人の心を癒すことができるような、のびやかで清々しい作品をつくりたいと願っています。



うさぎ野

まだまだ、限り無い模索の日々が続きます。  
一人で歩くものづくりの道は、自由で気候な反面、孤独で寂しく、時には迷うこともあり、いったい自分は何をしているのだろうかと虚しく思うこともあります。けれども引き返すことはできません。諦めることなく、投げることなく、時には立ち止まりながらも、ゆっくりと歩み続けていきます。

## 最上山公園に歌句碑十六基を建立

山崎町文化協会では、町当局の許可を得て最上山公園一帯に歌句碑を建立する計画のもとに平成八年十一月二十六日、最上山公園「文化のこみち」創造推進委員会を発足させました。以来当委員会では各地公園における歌句碑建立の現状を視察し、討議を重ねた結果、第一期工事として千畳敷一帯に左記寄贈者により、歌句碑を建立致しました。是非一度ご来園、鑑賞の上ご感想などお聞かせ下さい。第二期工事への良き参考としたいと思います。



- |        |         |         |
|--------|---------|---------|
| 稲村幸子様  | 福田栄三郎様  | 故松本寿賀子様 |
| 故杉山義昭様 | 小畑ぬる様   | 秦千里様    |
| 故妹尾正三様 | 秋久光子様   | 永井富代様   |
| 北川智恵様  | 田中良子様   | 故和田秀男様  |
| 下村きみ子様 | 故大井ひで子様 | 故藤村省三様  |
| 石野光栄様  | 故芦田八重様  | 故北林祐道様  |
| 故下多朝二様 | 故松本富治様  |         |

### 標碑寄贈

故谷川道一様

# 短歌

## 歌集

### 『一瞬ののち』考

山崎歌人協会 稲村幸子

にっぽんに未だ穴粟の邑ありとこころ  
和みて夕べを帰る 井上 美地

右の歌の作者井上美地様は、現代日本  
歌壇の中堅として活躍されている有数の  
歌人である。私がこの歌に出合ったのは  
総合誌「短歌現代」に掲載された、米口  
実氏（眩主宰）の「現代短歌全集三十八  
号」『井上美地歌集・一瞬ののち』の紹  
介文に依るものである。

「(前略) 猥雑な現実から自分を守り、  
生き方を模索する道程で見つけたものは  
(中略) 重いテーマの秩父困民党であり、  
沖繩であり、また播磨の山間になお残る  
風景や純朴な人々の生活だった」とか、  
「私も知っている兵庫県穴栗郡の須行名  
の流れ板橋を歌った歌がなかなか良い。  
彼女の反時代の嗜好によるものだろう」  
などと書かれてあり、  
・須行名の流れ板橋またも落ち人ら架  
くると集りては飲まむ

・ワイヤーを手繰りて拾う板橋と聞けど  
水高のいつ減りゆかむ

・嘯めばかく拡がる甘き谷の田に君が育  
てし中生新千本これは

等の歌に続いて冒頭の一首が載っていた  
のである。心惹かれて早速入手した歌集  
『一瞬ののち』はいま私の座右の書となっ  
ている。

流れ板橋の歌には他に、  
・葦そよぐ中洲も消えし濁流の日より行  
けざる向山にして  
・四十軒村をこぞりて橋架くる年に幾度  
を行事のごとく  
等の連作があり、災禍を己が事として、  
倦むことなく労力を惜しまず、素朴な心  
を寄せ合って生きる善良な村人たちに注  
がれる作者の温かい眼差しと篤い真情が  
読む者の心に伝わってくる。

女史は、山崎町の短歌グループ「一葉  
会」に指導のため西宮から幾度か来られ  
ているので、時には会員の案内により郡  
内各地を巡り、或時は沖繩へも同行され

ている。又、歌集の題名によっても知ら  
れるように、先年の大震災に遭遇されて  
いるので、それらの重いテーマを持つお  
りおりの事象を、緩みのない語調で気韻  
高く読み上げられた一巻の歌集には、人  
間存在の深みが湛えられ、おこがましい  
申しようながら、作者全人格の根底にあ  
る聖らかなヒューマニティーが感じられ  
るのである。

そのようなよき歌人が「日本の国に今  
も穴粟というよき地方のあることを思い  
つつ心和やかに夕ぐれの道を私は帰って  
ゆく」とまで詠まれた郷土穴粟のすがた  
を、土着の者の眼であらためて見直して  
みようと思う。

- ・峰々はいまだ昏れず伊沢川の川原に  
長けし菜の花は揺る
- ・黄葉ふかき日を来し穴栗岩上の宮よ阿  
吽の山犬坐しき
- ・透く水の影は岩魚か土砂降りの過ぎて  
冷えゆく伊沢川の源
- ・飛来せし鶴を祀れる伊和の宮訪いしか  
の目を老い母の言う
- ・川の傍に住みいる君の楽しみに朝の瀬  
梁の落ち鮎がごと
- ・義貞の寄進の鐘は触るるなかれ鳴らば  
この村に騒ぎを呼ばむ
- ・目鼻欠けし地蔵六つに手向けむか土堤  
に摘みたる赤詰草を

ず、私はこのように新鮮な感動表現を成  
し得たことがあったであろうか、はずか  
しい思いである。

行動範囲がお広いといえ、生活の根  
拠を都会に持たれる女史にとっては、こ  
れら田舎の自然風物やその生活がこのよ  
うに珍らかに新鮮に映るのであるうか。

尚また、女史に師事するグループの人達  
が、都会人には見られない純朴さ、やさ  
しさ、親しさ、慎ましきなどを失わない  
人たちなのであるうか、そうであろう。

そうなればこそ、お握りにして持て成さ  
れた米の甘さを「君が育てし中生新千本  
これは」と、下句の一語を余してまで歌  
いよろこばれたのであろう。

「勝つ事のみを目的とする野球ではな  
く、野球することによって人間の成長を  
遂げることを大切にしたい」とのプロ  
野球に返り咲きの野村監督のことばを私  
は「短歌」のこととして受け止めた。  
歌を学びつつ自ら心の純化を得られる  
ような師に出合える者は幸いである。

地方の時代と言われながらも、地方歌  
壇に陽の当たることは少いが「山崎に行  
くと短歌の匂いがする」とまでおだてら  
れる程に盛んであった日を偲び、井の中  
の蛙やお山の大将にならないよう、他地  
区、他結社との交流を深め、よき先進の  
ことばに謙虚に耳を傾けたいものだとし  
みじみ思ったことである。



## 各地短歌祭入賞入選作品

(平成十年度)

### ◇第十回神戸短歌祭

(四月二十九日・神戸市立婦人会館)

・兵庫県文化協会賞

産まれるる孫待つ友が作業台の隅に忍ばず携帯電話 釜村 靖子

・入選

髪を切りすこしく耳の出でたれば耳より風をひきたるらしも 森本萬千子

### ◇第十七回六粟郡民短歌祭

(九月六日・一宮町センター一宮)

・兵庫県議会議長賞

震災後建ちたるビルに灯が点るパズルの枘目を埋めゆぐがに 伊東まさ子

・一宮町教育委員会賞

拾はねば拾ふ者なし独り居の床に散りたる百合の一弁 富和かず子

・六粟郡文化協会連絡協議会長賞

観世音の胸に値札をつけしより商品と異なる思ひうする 安東はつ子

・ハリマ農業協同組合長賞

明治より歩み重ねし父の足の固き爪切る日の射す縁に 伊野 和子

・六粟郡歌人連盟賞

視界なきまでに雨傘傾けて朝の植田の水止めにゆく 嶋田 純孝

母探す仔鹿の声は闇を裂き狼師は獲物を積みて去りたり 中田 博子  
定まらぬ思考の一つ揺れながらフロント硝子をすべる水滴 南 裕之

### ◇西播磨短歌祭

(十一月十一日・西播磨文化会館)

・西播磨文化会館賞

声上げて夕餉を呼ばふ妻の声つくつく法師の鳴く向うより 嶋田 純孝

・奨励賞

クロール牛生れて行く先いかなる夫と語らふ牛飼ひの業 伊東まさ子

・佳作

高高と柵めぐらせて守る田に安値の米はたわわに稔る 中田 博子

緞張はゆるやかに上り始めたり司会者

我が晒さるる刻 山本 千代

小声にて携帯電話かける子の内緒ばなしが風に流るる 山本 正子

夫の歩に合せて登る階の最後の段を声掛けて踏む 進藤てる子

## 最上山公園

### 文化のこみち

#### 歌碑 (うたのいしづみ)

石こそは草より木よりしづかにてにしへ人も老いてめでにき 故・北林 祐道

明珍よ佳き音を聴けと火箸さげ父の鳴らしき老いてわが鳴らす 故・藤村 省三

猫柳銀の芽吹けば降る雨も明るかりけり掛保の川の面 故・大井ひで子

砲声の夕べはやみて大黄河染めて没る日のおほき寂けさ 故・松本 富治

塩壺にしほを満たしめ砂糖壺に砂糖みたしむ歳送る夜を 故・松本寿賀子

耳しひをあになげかめや吾子と来て仰ぐ大和の塔の水煙 故・杉山 義昭

かくのごと世のなりはひはきびしきかしらじらと冷たき石階を踏む 故・妹尾 正三

強く厳しくやさしかったと靖国に遺児らが建てし垂乳根の像 北川 智恵

山を出で山に没る日の恩寵やこの身の歳八十余り七つ 稲村 幸子

## 山崎歌話会

### 常連歌抄

○一人来て山の焚火にあたるるとき人の世になき安らぎがある 北 隆治

○転倒の悔ありありと蹲る選手を白馬の霧がつつめり 栗山 節子

○樹には樹のたましひあらむ原木のアラスカ杉は流刑者に似る 森本萬千子

○満員の電車で慌てとび乗りてはからずも乙女の胸にふれたり 嶋田 純孝

○乳母車に乗せて遊びし河川敷今はその娘に手を引かれつつ 北川 智恵

○軒つたふ雀の足裏眼に追ひつ一人留守居の静けさにあり 青柳りよう

○脱ぎし服に残るにはひの哀しかり子は少年となりつつあるも 安東はつ子

○しらしらとある夜は月が射すならむ永久不在のわれの机に 山崎 智絵

○滝の軸を糸瓜に替へて香炷けば床の間は夫在りし日の秋 稲村 幸子



俳

句

# 落花の龍野公園を訪ねて

揖保川に沿って龍野市を訪ねる。

四月十二日青嶺会の十四名は午前九時半  
迎への車に乗る。

龍野市は昭和二十二年竜野町と小宅村  
が合併し、さらに同二十六年揖西、神岡、  
誉田、揖保の四ヶ村が吸収され、現在の  
龍野市となった。市の中心部を揖保川が  
貫流し、その竜野橋の東に立つと、原生  
林に包まれた鶏籠山が美しい姿を見せて  
いる。この山は四百数十年の城山である。  
十時過龍野公園に着く。

鶏籠山春の百花をふところ  
光子

一山をほのかに包み若葉風  
千里

おぼろなる芽吹きは母の里  
ゆき

見渡せば花に埋もれる隅櫓  
美保子

花人となりて憂き事忘れり  
君子

## 山崎俳句協会

山口 栄子

竜野城から侍屋敷においてゆくと、周  
辺に露風の生家、少年時代を過ごした父  
祖の屋敷跡がある。一高寮歌「嗚呼玉杯」  
の作者矢野勘治、明治の文豪国木田独  
歩の父祖の屋敷跡、そして家老門、脇坂  
旧藩主邸跡、霞城館などが散在している。  
古い町並の織りなす美しさは度々足を運  
びたい思いがする。

吹く風に落花浄土となりけり  
八重

桜散る心うつろに宙になり  
光栄

一陣の風一時の花吹雪  
薫風

侍屋敷から竜野公園にのぼると、紅葉  
窟、聚遠亭、国民宿舍赤とんぼ荘と、中  
腹を一巡りする遊歩道があり、文学小径、  
哲学小径ともいって路傍や樹間に碑が多  
く建っている。

花人となり句碑巡り歌碑巡る

とみ代

しきりなる落花あびつつ句文読む

泊水

うららかや句碑の座えらぶ花吹雪

千代子

童謡の小径へ誘ふ春日傘

チエノ

童謡の小径を行けば山つつじ

良子

春光にまみれて遊ぶ子等二人

栄子

花吹雪の中、三三五五 散策しながら  
句作りをする。

句会場はレストラン「いせ」の桜の間、

昼食をなし、締切一時半、投句し、披講  
に入る。緊張の中和やかな句会を終え、  
楽しかった一日の余韻を胸に帰途に着く。

## さわらび句会詠草

渡る風止むるものなき花野かな

速く病み帰燕の群の空まぶし

壺阪加代子

枝豆の塩加減よく御酒すすむ

小林 紫生

威銃時折ひびく谷づたひ

山岸その子

雁行やさきがけすくと首をのべ

藤井 七代

稲光一閃海に突っ立ちぬ

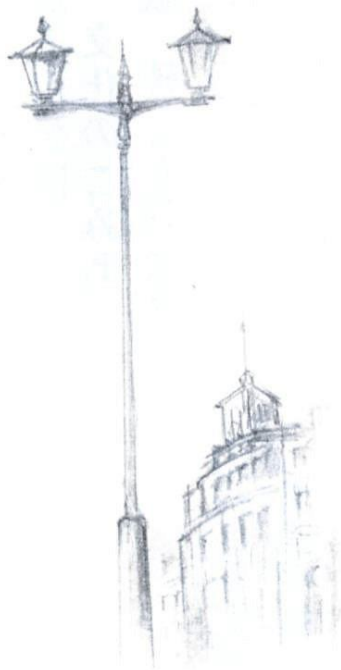
望に佇つ遅き夕餉の箸置き

幼な子の虹の許へとねだりけり

薄木満寿恵

風立つやかなかなの声揃ふ時

本條 淑子





青嶺句会詠草

境内に咲き境内に散るさくら

芦田 八重

倅せな愚痴をこぼして葛の餅

秋久 光子

青嵐手負の志士の隠れ岩

石野 光栄

海に散り花野に兵の墓一つ

岸野 昭三

緑ぬくし俱に黙して老夫婦

植木 遥子

秋の雨醬油の香や城下町

井口 泰子

子に心残せし嫁の墓洗ふ

下村 君子

修業僧身じろぎもせず玉の汗

杉山 美保子

風に添ひ風に逆らひ畦を焼く

田中 良子

奥山に古城訪ふ人春惜しむ

鳥羽チエノ

脱げば荷になると思ひつ脱ぐ薄暑

永井とみ代

青嵐早苗田髪を梳く如く

秦 千里

夕顔や夕日のおよぶ路地深く

山田 東軒

会釈してまた振り返る墓参り

山口 栄子

水澄んで住む人やさし鮎の川

三浦 ゆき

釣堀や浮に止まりし蜻蛉かな

高野 薫風

病みぬれば目覚は早し木種の花

和田千代子

吹き抜ける風香のある新茶採む

福田 泊水



山脈句会詠草

春光のあふれをみなご生れきたる

浅田 蕪耕

南海の思ひ出さそふ破芭蕉

池田 陶瓦

柳芽をわけて櫓の音川下り

伊藤 紫明

樹齡古る桜もつとも蟬時雨

岩前多輝子

風の色澄みはじめたり曼珠沙華

宇野 幸子

螢火や濡れ髪を梳く女の刻

岡田 瑞穂

仰ぎ見る朱塗りの塔や青嵐

小倉 つね

萩の花小紋の如くこぼれをり

尾崎イツエ

俳画添へ今年も来たり夏見舞

垣口 翔人

赤とんぼさみしがりやでいつも群れ

久保 良一

光芒の幾筋釣瓶落しかな

高野 薫風

鱗雲心新たに画き励む

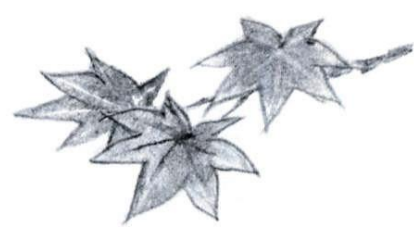
小畑 柏人

山頭火と遊ぶ夜長の灯をよせて

小紫 いく

鈴虫や音は良けれども未悲し

竹内 益江



ふる里と言ふも旅寝や鳥渡る

田中やえこ

鋸のよく切れ庭樹涼やかに

田中 恵

過ぎし日の修羅は語らず盆供養

牲川 信子

古希といふ坂に着きたる菊日和

畑林 和枝

戦争も恋もはるかや後の月

原田 久代

かえず波砂にはらばふ蟹の意地

福田 祥栄

空海の御廟に詣ず花の冷

前野さつき

落款を押して氣迫の筆始め

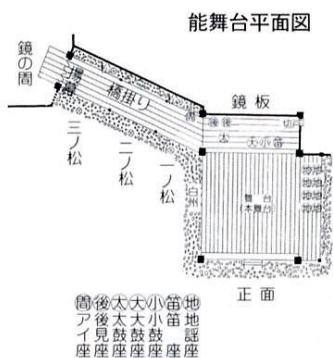
横江 柏峰

# 謡曲について

謡曲同好会  
鶴崎和美

元禄十二年(一六九九)に建築された由緒ある能舞台が、山崎八幡神社にあると言ふことから、昭和五十五年(一九八〇)第一回八幡神社奉納新能が開催されて以来、隔年とは言いながらも昨年で、記念すべき第十回が催されました。これは江崎金治郎先生を始め、多くの同好の方々や、郡内各有志の方々のご協力、ご援助の賜と同好の一人として大変有り難く、感謝している処で御座います。

新能を鑑賞された方、又、謡曲を習っておられる方々からも、狂言は観ていると、よく理解も出来て面白いが、能は少し解りにくいなあ、と言ふ話を聞きます。又これから能を観てみようと思われる方に、少しでも理解をして頂きやすい様に、



能の舞台構成を述べてみたいと思います。能には、シテ方・ワキ方・狂言方・囃子方の方々がそれぞれ分業で演じておられます。

シテ方は能の主役で、男女の成人・老人・神・鬼・霊・精などいろいろな役に扮して面をつけます。シテ方の中で最も重要な役をシテ、シテ以外をツレ・子方(子供の扮する役は必ずしも子供に限らないこともある)などで、シテは(中人)と呼んで曲の途中で一度退場し、衣裳を変えて再び舞台に出できます。これを後シテと呼び、中入り前の容姿とは極端に変わり、鬼・霊・精等となってその本性を見せると言ふ筋書きが多くあります。地謡と言ふ謡いの伴奏や後見と言ふシテの世話をする役もあります。

地謡は普通は八人で謡い、これも能には大事な役目で能の出来栄を左右する事もあります。

ワキ方は男性の役になり面をつけません。主な役は神職・旅僧・官吏等の役が多く、ワキツレの従者を従えて出ます。

狂言方は狂言を演じるのが本職ですが、能では中入りの時に、舞台上で登場して前場の内容を説明したり、シテやワキとの対話の役もあります。

囃子方には笛、小鼓、大鼓、太鼓等で太鼓は曲によっては出ない事もあり、謡の伴奏や又、楽器だけの伴奏も致します。

以上それぞれの専門職によって上演されますが、演能の内容や筋書きなどをよく把握されて、ご覧頂くとより一層楽しんでいただけるものと思います。今後とも八幡神社新能に格別のご支援の程宜しくお願い申し上げます。

## 第一の人生を終えて

昭和会  
植田 國 男

人生、「運が七〇で実力三〇」とか、「二に引き、二に運、三が実力」とかいわれるように社会においては、学力があるから、知識があるから出世し、成功するとは限らない。一に引きとは人脈のことであり、二に運とは勿論巡り合わせということである。引きも運も結局縁ということになるのではないだろうか。縁というものは不思議なもので、不運な巡り合わせは厄介だが、幸運な巡り合わせは有難いものです。

自分から求めてもなかなか得られないのが縁だが、求めなくても得られるものも、また縁でありそれが運というものでしょう。私は今年六月に四十六年余の勤務を無事終えることができました。私が中学三年生の冬休みにアルバイトをしなしかと先生の勧めで当時の六粟信

用金庫上野支店で年末働きました。(と言っても仕事の邪魔だったのかも)これが縁で就職することが出来ました。そして理事長が定時制高等学校の育友会長をされていたので定時制高校への入学も認められ諸先輩の理解を得ながら四年間通学することもできました。中学校の先生の勧めが私にとっては人生を左右する縁であり運でもありました。高等学校卒業と同時に本店へ転動となり、時代の変化と共に企業の業容拡大により若い年代で支店長を拝命し、また南部地域への新しい店舗開設の経験をすることができました。

更に経営者の一員として地域経済発展の為に働くことができましたことに感謝しております。その間に会った多くの人達、苦楽を共にした先輩、同僚の皆さん、そして様々な出来事について理屈では説明のできない何か目に見えない力が働いていたように思います。その人とその時の出会い、あの時のあの人のお蔭、大勢のあの人、その人に引立てられたり、教えられたりして今日まで来ることができました。それが縁というものでしょう。私の人生は運が一〇〇だったように思っております。今後は健康に留意し、貴重な縁と、体験と、数々の思い出を大切に第二の人生を送りたいと願っております。



# 植物観察会に行きませんか

植物同好会 福井 真知子

もう十年も前になるでしょうか。お花好きの友達から植物観察会へのお誘いを受けました。ずいぶん堅苦しい名前の会だと思い、ためらいながら参加しましたのが早春のカタクリの花観察会でした。初めて見たカタクリは、午前十時頃堅い蕾でしたが、お日さまに暖められて次第に可憐な六弁の花びらをうつつむき加減にまるで妖精の羽の様に開きました。野の花に魅せられた瞬間でした。エンレイソウ、キバナイカリソウ、ザゼンソウと、これまで見たこともない幽玄の花々にも出会い、そこでお聞きする先生方の説明はわかりやすく、それぞれの植物にまつわるお話は興味深く、植物への優しい心が伝わってきました。そして飾り気もなく温い自由な雰囲気にも包まれているこの会を一度で好きになりました。四月から十一月まで月一回の観察会を心待ちにする毎日となっています。

花の絨毯はイヌタデ（犬蓼）、子供の頃夢中でわらび採りをしている時見つけた花はあまりに清々しくて摘んではいけない神様の花だと思いましたが、ショウジョウバカマ（狸袴）という名前だと知りました。又早春に谷川一面真っ白に咲いていたかわいらしい花の名はミヤマカタバミ（深山傍食）（今は道路となっていてなくなってありません）。この様に観察会に参加するたびに私の中の現在と過去を結び、永遠の野原はジグソーパズルのようにつながり広がります。

四季折々の野の花に会いに足を運べるよう元気に年を重ねたいと思うこの頃です。

最後になってしまいましたがお会の中心となり運営して下さる方々の善意と情熱に心より深く感謝いたします。



**囲碁の  
おすすめ**

囲碁同好会  
春名愛子

「囲碁をお始めになりませんか。」と言うと、「そんな老人みたいなこと。」とか、「男性のすることでしょう。」といわれることがあります。でも囲碁のルールをたどってみると、平安時代の宮中の女官が、碁を楽しんでいる絵巻などがあります。

また、最近では、小学生名人や中学生名人も出てきますし、女子大生にも、碁が親しまれています。国内だけでなく、韓国、中国、欧米諸国などでも、囲碁がさかんになり、国際棋戦が行なわれています。

囲碁は別名を『手談』とも言い、言葉は通じなくても盤上で白石と黒石が対話してくるのでしょうか。

私を囲碁に誘ってくださったAさんの方が「こんな面白いことを、男性だけのものだと長いこと思っていて、損をした。これなら、少々視力が衰えても、続けられるね。」と、楽しんでおられます。

『碁は憎さも憎し。今日も会いたし。』

と川柳にあります。なつかしくて、会いたくて、ご無沙汰などしておられないとばかりに、行ったり来たりして深い交流ができるのも碁のおかげです。遠くの友、近くの友と長い年月のおつき合いで、おたがいにお互をたずね合っています。

棋力は、まだまだの未熟な私ですが、ほんとはよい趣味を与えられたことを喜んでいきます。これもよき友、よき先輩、よき師のお導きのおかげと心から感謝しています。

碁を始めたいけれど、何からするのかわからないと思っておられる人もあるかと思えます。いまは、情報がいっぱい溢れている時代なのです。書店にも入門書や雑誌がありますし、テレビでも入門講座などがあります。それにすでに碁をなさっている先輩におたずねになれば、きつとよい智恵をかしてくるでしょう。一年でも若いうちに一日でも早く囲碁を始めてください。

何の道でも奥は深く、習うことは沢山ありますが、一歩ずつ進んでいくしかありません。

『トンネルを抜けると、そこはまたトンネル』

でも強くななくても碁は楽しい…未熟な私にびつたりのことばです。

将棋は長い歴史の中でつくりだされてきました。日本にも定着してはば千年のあいだ遊び継がれてきて、日本人の生活のなかに深くとけこみ、伝統的な民俗芸能の一端とさえいい得るものになってきました。

この歴史のなかから、将棋の世界において格言が生まれ、現代の将棋対戦でもその局面に指されていることもあります。その格言を紹介いたします。

○居玉は避けよ ○玉は角筋を避けよ ○玉、飛混同は避けよ ○玉の早逃げ八手の得 ○王手よりシバるべし ○玉は下段に攻めよ ○飛角交換恐れるな ○序盤は飛車より角 ○振り飛車には角交換 ○振り飛車側は飛交換 ○竜は敵陣、馬は自陣 ○自陣飛車に好手あり ○自陣角にも好手あり ○角交換に5筋を突くな ○遠見の角に好手あり ○金底の歩、岩の如し ○金なし将棋受け手なし ○金はナメに誘え ○悴銀退治に角交換 ○歩越銀には歩で受けよ ○桂の高跳び歩の餌じき ○桂の不成に好手あり ○下段の香に力あり ○歩のない将棋、負け将棋 ○歩のない時には、端歩を突け ○

## 将棋と格言

### 山崎将棋同好会 後藤一孝

と金のおそ早や ○二枚換えなら歩ともせよ ○攻める前に自陣の固め ○取れる駒ですすぐ取るな ○チャンスには大駒を切れ ○一步千金 ○ツギ歩戦法、忘れるな ○敵の急所は味方の急所 ○悪手と好手、紙一重

他にも多くの格言がありますが、これらの格言も、全て信用し、活用するのは間違っていると思います。一例として「二枚換えなら歩とも交換せよ」というのも序盤で飛車と歩二枚の交換はできない。格言も使う時機が大切だと考えます。

毎年子ども将棋大会が山崎町においても開催されています。小学低学年、高学年、中学生それぞれ将棋歴の差で強弱はあるものの、個人差では特に差がついています。将棋の格言も対局を重ねていくうちに自然と身につくものですが、いざ対戦となれば駒の取合いになります。勝負は王様を取ることにあり、そのためには多少の犠牲はつきものです。勝負の世界とはいえ、完璧な勝利はないのが歴史的事実なら、現在の私たちの生活にもまんざら間違いはなく、通用するものだと考えます。

## 保存芸能の 奉仕活動一筋

山崎町郷土芸能保存会  
志水正信

私達郷土芸能保存会では、夫々郷里の氏神様に先祖から受けついで芸能を奉納し、五穀豊穡を村人とともに感謝をする事を第一義的に考えており、本年も各地区の祭りや催しからの要請により、次様の奉仕活動をしました。

十一月三日 サンホールやまさきで開催された、山崎町秋のふれあい文化祭には、川戸の獅子舞保存会が出演、道引とまるさんの舞を披露。

十一月八日に開催された伊沢の里文化祭には都多獅子舞保存会が舞台掛り、八洲、洞返し、の舞を披露。



秋のふれあい文化  
(川戸獅子舞・まるさんの舞)

伊沢の里文化祭  
(都多獅子舞・洞返し)



戸原ふれあい祭  
(宇原獅子舞・吉野)



同じく十一月八日に開催の戸原地区ふれあいまつりと、十一月二十八日に勤労青年国際交流セミナーが城下ふれあいセンターで開催され、そのアトラクションとして宇原の獅子舞が参加、吉野と道引及び宮入と曲舞を披露。



# 山崎町での人との出逢い

パンプーフアイブ 千田 淳 平

姿のやさしい山々に囲まれ、肥沃な平地を縫うように、水量豊かな川の流れる山崎町の風景は四季折々実に美しい。気候も温暖で自然の恩恵を全身に受けて育った人々は、神佛を敬い、先祖を大切に、人情厚く、勤勉な気風を培ってきたと思われる。城下町の伝統文化を今も暮しの中に受け継ぎ、ゆとりのある生活を営んでいる。当地に移り住んで、都会で忘れさられた古来日本の豊かな文化を見聞して、驚きをもってそのすばらしさを再認



識している。音楽仲間の五十波の大部正勝氏に勧められて、老大の茶道部に入れて貰う。伝統ある部の稽古は八木智恵子(宗智)先生の指導のもと、和やかな雰囲気の中、落着いた諸先輩の御点前が順番に行われる。それに引きかえ七十才からの私の手習いは立ち居振舞もままならず、何時までたっても覚えられない不甲斐なさに挫折感を味わう。それが今迄、お稽古を続けられてきているのも、親切に気持よく私を受け入れて励まして下さる諸先輩の配慮のお蔭でもあるが、先生が慣例として茶道部一同を招いて催されるお茶会に出席して茶道の深さを感じたことが大きかったと思う。想像した以上に美しく心のこもった趣きのあるお客を招く催しが茶道として四百年の歴史を持ち、尚洗練されて身近にあると云うことに驚いた。山崎町金谷にある先生宅は数拾名の子弟を招いて本格的なお茶会が体験できるよう配慮されて建てられている。お茶事は四季折々の変化を敏感に取入れて自然に合った趣好で行われるので使用する諸道具も変る。その後もお茶会に招かれてその都度変った好みのよい高

価な道具を見昇る機会を得て茶道はあらゆる芸術の総合されたものとの感を深める。隅々迄気を配り心のこもったお茶会は、お茶の心を吾々に伝えたい先生の気持が感じ取られる。お茶一筋に今日でも尚京都に通われて修練を重ねておられる真摯なお姿に頭が下る。

生花は老大でも教えておられるので衆知の通りだが、書画も堪能で特に若い頃画かれた繪を見せて戴いたが、色使いの美しさ大胆で迫力のあるすばらしい作品だ。美に対しての繊細な感受性を高度に洗練されて得られるのが茶道の真髄と云われているが、先生はまさにお茶人だ。先生と出逢えた事に感謝している。これからも生涯先生を師と仰ぎ、茶の湯の勉強が続けられることを幸せに思っている。



今年も季節を感じられない一年でした。これも異常気象なのでしょう。

播州山崎太鼓が結成される時に、久保孝会長の言葉で「山崎の山々に響きわたる太鼓、今から次の世代に伝承されていく太鼓にしてみたい」と言われまし

たがそれには、昔の様な自然と子孫繁栄が大切ではないでしょうか。私は保育園で働いていますが、子ども達が遊んでいる姿を見てふと自分の子供の頃を思い出します。

夏にはカラッとした青空、夕方になると入道雲が色を変え太鼓の音も齒がたたない様なカミナリの音。冬にはよく雪が降り学校授業の一つとなった雪合戦。春には山菜を採り、秋には紅葉を楽しむ。そんな当り前のことが味わえない今日、こどもに何を伝えていけば良いのか戸惑います。

そもそも和太鼓は雨乞い、豊作、お祝等自然と関係の深い物です。やはり今でも太鼓を打つ時はそんな自然の中で打ちたいものです。

自然、人、山崎太鼓他、何にしても過去から、未来へと同じ様に継続し伝えていく事は、決して容易ではなく大変な事です、大切な事だと思えます。

昔から姿、形を変えず今に残っている和太鼓は地味な楽器ではありますが、昔の情景を思い浮かべしてくれる様な雄大な楽器です。



# さらば法務局

## (登記所)!

新潮会

織金義雄

### 『法務局からのお知らせ』

神戸地方法務局

『神戸地方法務局佐用出張所・山崎出張所(登記所)』は、平成十年十月十二日(月)をもって竜野支局に統合することになりました。』(明治二十年、郡役所内に山崎登記所創立、宍粟郡一町十八村が門前の現敷地を国に寄付貢納し明治二十二年、竜野治安裁判所山崎出張所を新築。)

十月九日(金)、塚田元会長、小寺会長からの投稿依頼をお請けした際、右ピラを頂きました。住民の切なる願いも空しく・・・あと半日、自治会用に字限図を備えたいと思っていましたので急遽、閲覧・謄写に門前へ行きました。山崎と竜野間のバスも合理化(減便)されつつあり、行財政改革が過疎化に悩む地域住民を直撃することを痛感しました。職員、法務生協の皆様は、いつも親切でした。終業時、所長さんに「永い間お世話になりました。因に、明治の旧庁舎は、安井

町長、長田社会教育課長(のち助役)、田中(現助役)、福井(現消防長) 先後任両社会教育係長ら各位のご尽力で民族資料館として移築復原されています。(註・山崎郷土会報五二号九頁参照)。

裁判所でも、昭和六十三年前後に大規模な統合・廃止が行なわれました。

小規模独立簡裁一二二庁、大都市(東京二三区内の十一庁、大阪市内の三庁、名古屋市内の二庁、北九州市内の一庁)の独簡十七庁、合計一三九庁が隣接の支部又は本庁の併設簡裁に、支部四一庁の廃止も同様にドラスティックに実施されました。神戸地裁管内の独簡では、三田、相生、和田山、八鹿が本庁及び隣接併設簡裁に、神戸地・家裁篠山支部は同相原支部に統合。山崎(家裁出張所併設)は竜野に統合されました。山崎の民事・家事調停委員、司法委員、参与員全員とS庶務課長は管理職として竜野に転勤になりました。山崎簡裁は東京オリンピックに沸く昭和三十九年、藤井庶務課長(現心配ごと相談所専門相談員)の陣頭指揮で新築されました。廃庁後は財務局の管理になりましたが、兼田様、栗下様ら隣の皆様が善意で雑草を刈り四季折々の草花で彩り守って下さいます。有難いことと何時も感謝しております。(元・神戸地方裁判所刑事訴訟管理官)

## 冊子「しそうの文化財」

### 発刊にあたって思うこと

山崎郷土研究会 河本雅視

最近郷土の歴史に対する関心が高まり「ふるさと散歩」とか「古寺を探ねて」とかの出版物も多く、また私たち郷土研究会においても春と秋の二回にわたって歴史探訪の旅行が計画され実行されています。

こんなとき、宍粟郡文化協会連絡協議会において郡内の歴史や文化財をもっと私たちの身近にと、郡内の文化財を一冊の冊子にまとめられました。各町の教育委員会より、国、県、町の各指定文化財の資料を提供頂き、四年間かかってまとめ、平成十年五月その冊子「しそうの文化財」が発刊されました。

その中には国指定の重要文化財が五件、県指定が二三件、町指定が九一件、合計一一九件の指定文化財があります。国指定では一宮町の御形神社本殿や安富町の光久寺不動明王立像などがあり、県指定では山崎町の青木銅鐸や千年藤などがあります。また郡内には森林王国にふさわしい巨木が数多くあり、県や町の指定になっています。これらはすべて私たち先人の残した貴

重なものばかりであり、私はこれらの文化財を尋ね、直接見たり触れたりすることにより、そしてまた、それにつわる歴史などをひもとく事により見聞を広め、より人生を楽しく生きがいを持って生きることが出来ると思っております。

町立図書館の二階にある歴史郷土館の中央に青木銅鐸があります。この銅鐸は青木の中井隣保の南丘陵地中腹から出土していますが、この銅鐸から、今から二千年余り前の弥生時代に私たちの祖先がこの地に住みこの銅鐸を用い、どんな生活をしていたのかなーと想像したりも出来ます。

冊子をもとに山崎や宍粟の歴史を振り返り、温故知新の言葉通り新しい山崎町を創造するため文化財も尋ねてみてはどうでしょう。以上  
ご参考までに  
「しそうの文化財」巻末の事務局便りに紹介があります。  
特価一千円、お買求めは社会教育課へ(売り切れの時は悪しからず)



# ふれあい

山崎茶華道協会

山口 澄代

今しがた畑仕事せしと語りつつ茶筌ふる手にゆとりの見ゆる

忙しい生活の中に上手に時間をつくり茶道に通い続ける婦人達 「この木花になるか」と届けて下さった花材を手に小学校に出入りをさせてもらって十余年、活かしているそばに寄って来て花の名前を尋ねる子、嬉しそうに残った花を教室に持ち帰る子。

老人ホームでは花を手にとるとまるで別人のように若返り生き生きと見える老人達、茶華を通して多くの人達とふれ合う事が出来、私の人生にどれほど潤いと彩どりを与えてくれる事でしょう。

続けていてよかったですとつくづく感ずるこの頃です。

現在山崎町には茶華道会員が二四九名います。さつき祭りには協賛の茶席を催し、遠近各地からのお客様に寛いで戴こうと工夫をしています。十一年度には気楽に入っていたただこうと戸外での茶席を予定しています。夏から秋にかけては、チャリティを目的に観月茶会をもち、人々に月に心を寄せ、文学に親しんで頂こうと趣向をこらして催し、売り上げは町の

福祉にお役にたてればと寄付をしています。十一月の文化祭には華展と茶席をもって町の行事への参加を願っています。

最近では各地区に根づいてきたふれあいまつりに華展とか茶席が取り入れられて嬉しい傾向にあります。

つい先日城下の第五回ふれあいまつりの華展茶席に参加させて頂きました。

茶席では体験コーナーを設けて茶筌ふりを試み、子供達には大人気でした。来年はお運びがしたいと申し出があり、楽しみにしています。

会長に小畑先生をお願いしているとは言え、女性の集りです。会をもつ毎に場所の設営など要領が悪くて、ご面倒をおかけしていますが、心豊かな町づくりや福祉に又、文化の向上にお役にたてるよう努力を重ねて参ります。どうぞご支援をよろしくお願い申し上げます。

若松の水引き結びに余念なき娘ら寄り合へば茶髪が光る

物に満され思う儘に生きているかに見える現代っ子だがお勤め帰りの疲れも見られない。試験まっ最中の中学生、高校生、自然に出来た先輩後輩の中でお互いに庇い合ひ折り目を正しながらお茶又華に頑張る姿、時には笑いが止まらない一時、子育て、嫁、姑の話、自然の季節うつろいに感銘したり、これからも素晴らしい未来を夢みながら精一杯生きたいと願っています。

# 楽しみな

## 定期演奏会

山崎児童合唱団

山崎小六年

井 上

瞳

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

一月十七日に定期演奏会があります。今は、定期演奏会の練習をしています。定期演奏会では、ミュージカルもします。だから、ミュージカルの練習をしています。ミュージカルは、『雪渡り』をします。六年生は、一人一人役があります。わたしは、きつねの子のこん子をします。六年生になって初めて自分の役をもらえてうれしかったです。でも、セリフがたぐさんあって覚えるのがたいへんです。どんなセリフを言うか、だれの次に言うか、覚えるのがたいへんです。それに動作をつけるので、たいへんです。今は、まだ、動作があまりついていきません。でも、あと二カ月しかないから、はやくセリフを覚えなければなりません。

ミュージカルの中には、歌もあります。歌はソプラノとメゾソプラノとメゾアルトとアルトにわかれていきます。わたしはメゾアルトです。パート練習は、パートにわかれて、けんぼんハーモニカで音をとりながら、練習をしています。パート練習の後には、みんなであわす練習をしま

す。ときどき、アルトにつられてしまうから、パート練習をもっとしななければいけないと思うこともあります。夏休みには、一宮のスボニックパークで、合宿もありました。合宿では、わたしたち、六年生が一人ずつセリフを言いました。わたしは、すごく緊張しました。そして、六年生の役の発表がありました。わたしは、きつねのこん子でした。後で、風船に半紙と新聞紙をはりつけ、きつねのお面も作りました。



# 尺八と我が人生

邦楽邦舞研究会 竹壯会

石野 和雄

大きな題名でいささか恐縮ですが、何のことはないごく普通の人間のすることです。終戦直後何も無い時代、娯楽も久しく遠ざかっていて、世間は殺伐としていた時近所の友人達が尺八のケイコに通っているのを見て、自分もやってみたくなり、入門させて貰い、大雲寺の本堂で初めて尺八を手にしたのが事のはじまりでした。最初は何も音が出ず、家で吹くのも恥かしくて掛保川の川原で背丈以上の竹の茂みの中にかくれて一人練習をしました。「君が代」が曲がりなりに吹けるようになりましたが、その次から他の曲になると指が思うように動かず、よくまあこんなむずかしいことが指が動くようになるのだらうかと何度も挫折しそうになったこともありましたが、今にして思い出し、振り返ってみるとあれからいつの間にか五十年も過ぎ、半世紀にもなるのに不思議に続いているのには驚きです。これも諸先生諸先輩方のお蔭と感謝しております。

近年は毎年仲秋の名月の夜は、尺八を

持って適当な場所を散歩します。今年も掛保川の十二波の川原の岩の上で愛宕山から上る満月を見ながら川面のさざ波にゆれる月影のきらめきを眺め、せせらぎの音を聞きつつ一月月明りで好きな曲を思いのままに吹きました。又ある年は八幡神社の弁天池で月を眺めつつ吹いたことでもあります。やはり心にしみる音を自分で味わうのも又、楽しいものです。何事も一つのことを続けることはよいことだと思います。車で休日にドライブに出かけるとき尺八を持参することがよくあります。あるとき岡山県の瀬戸内海に面した牛窓港へ行つたときのこと、季節は丁度春でした。ふとあの有名な箏の名手宮城道雄を思い出し、名曲「春の海」を作曲された時どんな情景でどんな気持であったらうと、私も港の岸壁に車を止め尺八を取り出し生窓の海に向かって目を閉じ、「春の海」を吹きました。曲も終わるころやおら目を開けると、目の前に満員の客が乗ったフェリーが音もなく入港して来まして、全員が甲板上で私を見ているのには驚きました。そんなこともあったりして自分で楽しんでます。誰でもすぐにやれないのですが何事も辛棒が必要です。若い人がどんどんやって頂かないと、後世に伝えることが出来なくなります。やってみたい方はいつでも来て下さい。お待ちしております。

# 浅野長矩侯

を頌える

山崎詩舞道連盟

小川 登

今年の大河ドラマ「徳川慶喜」に続いて来年の大河ドラマは「赤穂四十七士の快挙」になる筈である。(山崎文化が御手許に届く頃には、ドラマは既に始まっていると思ひます)

赤穂四十七士が、物語に、芝居に、映画に、英雄化される反面、主君浅野長矩は、我俣で短氣、一時の激情に委せて、分別もなく吉良を傷つけたとされてゐるが、決してそうではない。学問もあり、氣力、胆力共に優れた名君であった。其の事は、侯の遺された「風さそう」の辞世の歌を見ただけでも、充分頷けます。余程の教養と度胸が無ければ、二十八才の青年に詠める辞世では無い。又、長矩の一周忌には、沢山の市民が花岳寺に集って、長矩の菩提を弔ったと言う事であります。将に名君であった証左であると思ひます。

天下を覆すような大事件は、学問理論の裏付があり、道義的裏付がなければ実践されるものではありません。長矩は少年期に、大石は青年期に、山鹿素行の儒学の忠孝に裏打された『中朝事実』の教

育を受けてゐるのです。大公方だいこうほうで代表される幕政の乱れとその象徴的存在である

吉良上野介を討って、幕政並に武士道の素を、躬を以って戒めようとしたのです。大石良雄以下四十七士は、主君の意図を充分承知の上で、一条乱れず、此の壮挙を敢行したのです。現代風と言えば教育の力、思想的に統一された集団の信念に基づく行動です。

浅野長矩侯 七言古詩 換韻格  
小川賀尉作 仄上四紙 平上土真  
仄去土隊 平下六麻

鷹羽姓清和源氏 鷹羽は清和源氏を姓す  
智勇兼備廉潔士 智勇兼備廉潔の士  
山鹿学儒修兵学 山鹿の儒を学び兵学を修む

中朝理想建国美 中朝の理想に建国美しく  
仁徳政服臣安民 仁徳の政に臣服し民安く  
隆隆藩政海内醇 隆隆たる藩政海内に醇し

咄賜勅使供応任 咄として賜る勅使供応の任  
指南上野非道疎 上野の指南は非道の疎り  
貧利行暴武門穢 利を貪り暴を行う武門の穢れ

遵天拔劍陋習誨 天に遵って劍を抜き陋習を誨む  
風さそう花よりも尚我れは又  
春の名残をいかにとやせん  
無念短刀託信奉 無念の短刀に信奉を託す

遣臣志固怨府碎 遣臣志固く怨府を碎く  
四十七士人倫華 四十七士は人倫の華  
三百星霜壯拳誇 三百星霜壯拳を誇る

文優理聡長矩候 文に優れ理に聡し長矩候  
泉岳香煙英雄嘉 泉岳香煙英雄を嘉す



# 山崎町花

## サツキを想う

播磨サツキ会

春 名 豊 明

サツキの花は山崎町の町花であり町民の方々に親しまれている花です。

今では山崎町と云えばサツキ、サツキと云えば山崎町と町外の人達にもよく知られています。

一時期は町内の多くの家庭の玄関先やベランダ、庭等に美しい花を咲かせ、多くの人達の目を楽しませ、また心をなごませてくれていました。

ところが今では、サツキの花も草花に取って替えられ、皆さんの家庭でもあまり見ることがなくなりました。

サツキは「花で良し、木で佳し、葉でもよし」と三拍子そろった花と云われています。

サツキを育てる場合、二通りの作り方がありと思います。花を楽しむのと、木づくりをして盆栽として楽しむ育て方です。

サツキの花も、最近では次々と新品種が作り出され、花として楽しめるサツキも多く見られる様になって来ました。

この様な、花物として作り出されたサツキは、大変育てやすく、色々な花形や色々な花色があり、美しい花が楽しめます。

ます。

草花の多くは、いくら一生懸命育てても一年で枯れてしまうものが多く、来年も楽しめる事が少ないけれど、サツキは違います。愛情を持って育てれば必ず来年は、今年よりも木も一層大きくなり花もたくさん咲いてくれ、またその次の年は、それ以上に皆さんの手入れに、むくいてくれる花です。

盆栽としても作り方によっては、いろいろな樹形を楽しむことが出来ます。盆栽と云えば、大変むずかしく、年寄のするものと思われがちですが、そうではありません。自分流に作って楽しむれば良いわけで、展示会に出品されている様な立派な木ばかりが盆栽ではないと思います。直幹、模様木、株立、根上り、岩付懸崖等いろいろな樹形があり自分なりに作ってみると大変面白く楽しいものです。

葉についても、毎年寒くなり霜が降りる頃になれば、今まで緑一色であった葉が、赤や黄色や絞りの入るものと、花と一味違う美しい姿がみられます。

この様な、素晴らしいサツキを、もう一度見直し、一人でも多くの人に育てて頂ければと思います。

やはり山崎町は、サツキの町と云われるだけあって、町内のどこに行っても、美しい花が見られるな、と云われるような町にしたいものです。

# 何を表現するが

山崎美術会

福岡 久 藏

日頃わたし達が展覧会や本で目にする絵画や書、工芸品などそれらの作品を創作されている人達は「どんな想いでつくられているのですか」とか「何を考えながらつくられているのですか」と尋ねられることがあります。私はいつも答えに窮しています。何故かといいますが、作家はそれぞれの「イメージの力」で表現しているからです。そのイメージはきわめて主観的なもので、人それぞれの感性でとらえたものなので、言葉で一樣に表現することは難しいのです。

唯、私の事に限っていうなら、もう少し話を具体的に進めることができます。先月、南イタリアのマテラヘスケッチに行きました。洞窟の都市マテラは建築学上の価値が見直され、修復にも力が入れられ、世界文化遺産にもなっています。

地中海の沿岸地域には先史以来、様々な洞窟文化が存在していましたが、その後イスラム教徒に追われたキリスト教徒たちも入り、数多くの教会も造られています。長い年月にわたり洞窟住居が進化

していったようです。十九世紀初頭まで二千年以上も都市として機能していましたが、二十世紀に入ってスラム化していったといわれています。

そのマテラが全貌できる所に立ったとき、私は「おー、これは」「ほー、すごい」「うーん」などと感嘆の声しかできません。深く切れ込んだ峡谷の凝灰岩の岩盤に穴をあけ、家畜と共に生活していた跡なのです。

螺旋状にぐるぐる廻る環道は岩穴から掘り出した石が敷き詰められ、それはなかなか坂であったり、階段となっていたり、狭かったり広かったり、私はその環道を進んで底の方へ下りたり上ったりしました。高台にあるバロック風の教会に着き、振り返ると、今登ってきた道が見えます。そして正面には傾いた壁のように見える洞窟群が見渡せます。

白、灰そして灰褐色の洞窟の家。その出入り口や窓のぼっかりあいた黒い色がまるで瞳のように、じっと私を見つめているように思えるのです。それは哀しくも見え、不安そうにも、何かを訴えているように見えるのです。それは単に「きれいな、きたない」では言いつくせないものです。私にとっては驚きであり、感動でもありました。あの異様で不可思議な洞窟のイメージをなんとか作品にしよう、と、今、制作に励んでいます。

## 感謝 感謝の

# 十周年記念チャリティーコンサート

平成会会長 志水吉博

私たち平成会は地域社会の文化の向上発展と会員相互の親睦並びにそれぞれの資質の向上を目的として結成し、今年度で十周年を迎えました。

月例会には多くの方々にご講師をつとめていただき有意義な勉強をさせていただいています。対外的な行事としては五年の関学グリーンクラブによるチャリティーコンサートや川戸農園でのジャガイモ掘り(保育園や幼稚園児に開放)、それと恒例になっている山崎八幡神社のカウンタダウンと粕汁の接待などです。又、今年十周年を記念して十一月十五日に和太鼓グループ「Japanese Drums Orchestra」をお招きしてのチャリティーコンサートを開催しました。当日はサンホールやまさきに七百名を超える入場者を迎え、豪快な太鼓の演奏を鑑賞していただきました。

平成会の今年のテーマは「環境を考えよう」です。私達は便利になった代償に色々な環境を壊してきました。私達が子供の頃遊んだ山や川や海はたいへん汚れています。自分たちのためだけでなく子供や孫の時代のために今何ができるのか、一

人一人が考え直す時なのではないでしょうか。我々が出来る環境改善は何でしょうか。地球を汚さない、ゴミを減らす、リサイクルをするなどそれぞれが出来ることをするのが少しでも環境の改善につながるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、この催しに際し、新潮会、昭和会、山崎町教育委員会、山崎文化協会、神戸新聞、各文化団体の諸先輩方を初めとして、多くの企業の方々に物心両面にわたりご協力を賜りましたことを心から感謝申し上げます。

なおチケット売上の一部十二万七千八百一十円を環境問題に役立てて頂くように山崎町に寄付させていただきました。ありがとうございました。

合掌



## 山崎音楽の友「夏の集い」について

山崎町合唱連盟 藤井慧 乗

今夏兵庫県青少年本部の主催で、梯キャンプ場で、青少年指導者体験キャンプが実施されました。

その夜のイベントに山崎町の音楽グループ即ちYOB男性合唱団・町民合唱・バンプ・ファイブ・戸八・サックス・ギター・ピアノ……とゆうみなさんが招待されて、炎の集いを大いに盛り上げることに成功いたしました。

当日そのグループは午後より一般参加者に加わり、タイ国女性、中国の研修生と共にお国ぶりの料理を共に調理して国産色豊かな野外大パーティとなりました。長水山に日が沈むと「一日の終り」の全員大合唱で炎の集いが開会されます。各種ゲームやフォークダンスの間に楽団演奏やらキャンブソングや懐かしい抒情歌が演奏されます。その盛り上がりの中でタイ国女性達が美しい民族衣装で舞踊が披露されます。

これらの演奏演技は、何の飾りもない川端の広場で行われ、それがどんなステージよりもマッチしたから不思議です。この飾りのない、気取らない、自然発生的な喜びと悲しみの表現こそ庶民文化と言うものでしょう。出演した一同はこの楽しみが忘れられず、その打上げパーティを全員参加で行いました。会場は良し、

料理は最高で飲み放題、こんなムードの中で心ゆくまで音楽を楽しみました。

さて最近の山崎各中学校の音楽部の活躍はめざましいものがあります。又山崎児童合唱団も発団以来二〇年を超えました。コーラス各グループも良いライバル意識の中で共に励まし合いながら向上されて参りました。これは各グループがすばらしいリーダーに恵まれているからです。又音楽というものが昔はお金持ちのステイタスとしてピアノがあり、レコードがありました。然し今ではすべての町民の生活文化の一要素であります。例えば小学生が友達の家遊びに行き、弾き出す曲は「猫踏んじやった」であり、孫がピアノを弾けば父母が歌い、お母さんが歌うとみんなで合唱する時代になりました。

この様な音楽的環境のレベルアップがこんなすばらしい発達に影響していることは言うまでもありません。

ではどの町でもそうなるかと言うと私は山崎町は他の町に比べてハイレベルだと思えます。これは町民の自主的な活動も勿論ですが、町当局の永年の場所作り・人作り・グループ作りのお力添えがあればこそと思えます。今後の益々の御配慮を願って止みません。



# さつき民踊 グループに出会えて

さつき民踊グループ  
安川 英美子

五十路に入り子供も成長し人並みに独立しまして、ふと気付くと人生も半ばを過ぎておりました。私も何か楽しみを持って過ごしたいと思っておりましたところ、友人に誘われ、さつき民踊グループの方とお会いし縁あって入れていただき、毎週木曜日の夜のひとときの間を楽しくお稽古をさせてもらっています。

今年のグループの活動状況は四月の芸能祭・長水園慰問・山崎町敬老会・ふれあい文化祭等、色々なところに参加し、度々多くの舞台上に踊らせていただきました。  
私を感じましたのは練習の時はいくらでもよい出来と思っても大舞台上に立ちますと緊張しすぎて、思うように踊れないのが残念でした。  
仲間の人から「一回、一回緊張するよ。回を重ねると上手になりますよ」という言葉を聞きまして、次は頑張ろうという気持ちになりました。  
お稽古を始めて新しい曲を覚えるのになかなか時間もかかりますが、先生の丁寧で親切なご指導で出来あがった時の喜びはたいへん嬉しく感じております。  
この間ある方から「踊り見ましたよ。皆さん上手に踊られていましたよ。」と声をかけられ、つたない舞にもその時々多くの人々の温かなご声援をいただいていることに、感激と感謝でいっぱいになりました。



さつき民踊グループの家族ぐるみの皆様に出会えたことと、すばらしい先生に教えていただき、これから先の長い人生、あせらずゆっくりと楽しみながら、お稽古を続けて充実した日々を過ごして行きたいと願っております。  
今後共、さつき民踊グループに暖かいご声援をよろしく、お願い申し上げます。

## 山崎町文化協会団体名及び所属会名

平成10年度

1	山崎郷土研究会 部会 地区 会報部会 山崎西地区支部 研修部 山崎東地区支部 史跡部会 山崎北地区支部 菅野地区支部 土万地区支部 城下地区支部 戸原地区支部 河東地区支部 神野地区支部 高沢地区支部	4	山崎郷土芸能保存会 宇原獅子舞保存会 川戸獅子舞保存会 都多獅子舞保存会 青木獅子舞保存会 塩田獅子舞保存会	8	山崎歌人協会 山崎歌話会 新樹会 かしの短歌会 一葉短歌会	12	山崎文学会
2	山崎茶華道協会 (華道) (茶道) 池坊裏千家流 嵯峨御流 表千家流 知香流 御所流 東雲御流 庸軒流 未生流 未生流(庵家) 未生流中山文甫会	5	山崎邦楽邦舞研究会 (邦楽) (邦舞) 竹壮会 春陽会 司友会 光陽会 琴泉菖蒲会 踊むらさき	9	山崎美術協会 洋画部会 日本画部会 書部会 工芸部会	13	山崎植物同好会
3	山崎俳句協会 青嶺句会 山脈句会 さわらび句会	6	山崎詩舞道連盟 吟道撰南流 宍粟支部 賀堂流 宍粟吟詠会 賀堂流 最上吟詠会 賀堂流 篠乃丸吟詠会 賀堂流 あおい吟詠会 冠翔流 扇翔会 紫州流 兵庫明吟詠会	10	山崎謡曲同好会 掬水会 唱歌謡王会 福篠観集 福篠観集	14	新潮会
		7	町民合唱連盟 町民合唱 Y O B 宍粟の森混声コーラス	11	山崎囲碁同好会 城下地区区 神河地区区 萬地地区区 土野地区区 菅野地区区 守抽	15	さつき民踊グループ
					16	播磨さつき会	
					17	山崎将棋同好会	
					18	播州山崎太鼓	
					19	昭和会	
					20	平成会	
					21	バンブーファイブ	
					22	山崎児童合唱団 戸原小学校 城下小学校 河東小学校 山崎小学校 神野小学校	

## 事務局便り

### 冊子「しそ文化財」の紹介

故郷の歴史を訪ね、先人の遺した文化を学ぼうと、そんな人々のご要望に少しでも役立ててもらえたらと、昨年六粟郡文化協会連絡協議会によって、各町教育委員会のご協力のもと「しそ文化財」という冊子を発刊致しました。

冊子の体裁はB5版、七十五頁、カラー印刷、探訪用の地図も掲載し探訪しやすくできています。また、内容は郡内の各指定文化財、国(5)・県(23)・町(91)を各町ごとに分かりやすく掲載しています。

価格は特別価格一冊千円です。ご希望の方は町教育委員会社会教育課でお求め下さい。お送りする場合は、送料込みで一冊千五百円となります。



社会教育課内  
文化協会事務局内  
☎ (0790-62-2000)

## 編集後記

編集長 荒木俊介

「やまさき文化」第十八号を発刊します。いつものことですが、編集に際しましては、各団体より貴重な記事や随想をお寄せ頂き、有難く厚くお礼を申し上げます。原稿を読ませて頂き、それぞれのグループが素晴らしい文化活動を展開され、経済バブル崩壊のともすれば暗くなり勝ちな地域の人々に明るい希望の光ともされていることに深い感銘を覚えると共に改めて尊敬の念を禁じ得ません。

本号の特別寄稿は、龍谷大学教授の湯野勉氏と染色作家杉山真由美氏のお二人にお願い致しました。共にそれぞれの分野に於いて最先端を歩んでおられる方です。また、浅田耕三氏の創作では山崎町にゆかりの深い山崎闇齋先生と徳川第四代将軍家綱の名補佐役として聞えの高かつた保科正之との交りを通しての闇齋像が描かれています。ともにご熟読下さい。最後になりましたが、表紙並びに挿絵は、今回は女性をということで精緻華麗な画風の神名彰子氏にお願いすることになりました。前号までお世話になった福岡久蔵氏には誌上をかりて心より厚くお礼申し上げます。

OA機器・事務用品・スチール家具  
学校設備品・理化学機器・楽器

office service

イトーオフィスサービス株式会社

代表取締役 伊藤和久

山崎町中広瀬117-12 TEL (0790) 62-0126

創業明治28年・さつき本舗

四季の菓子

御進物・おみやげ・お茶うけに、四季折々の  
真心こめた手づくりの御菓子を

御菓子司 くらき

本店：播州山崎町さつき通り (電)62-0170  
山田店：播州山崎町山田 (電)62-0160





### 飛石機械産業からのお願い

人が人として幸せになれる処方箋は何なのか、そのようなことを考え「幸福の泉」を生活信条に、自作自演で30数年を歩いて参りました。昭和46年、会社発足時に経営理念と改め、お客様のご信頼にお答えする為に、人としての使命感に燃え、それを無限のエネルギーとして全社掲げて取組んでおります。

当社では、企業は社会の公器でなければと申し上げており、流通の世界の中で生活文化の向上を願い、多目的に活躍しておりますので、尚一層のご支援をお願い申し上げます。

# TOBIISHI

飛石機械産業株式会社  
TOBIISHI KIKAI SANJO CO., LTD.  
〒0790 62-1200 山崎町山崎287  
TEL (0790) 62-1200

飛石建設 Dept.  
〒0790 62-1200 山崎町山崎287  
TEL (0790) 62-1200

飛石インテック Dept.  
〒0790 62-1200 山崎町山崎287  
TEL (0790) 62-1200

CREATIVE Dept.  
〒0790 62-1200 山崎町山崎287  
TEL (0790) 62-1200

飛石建設 Dept.  
〒0790 62-1200 山崎町山崎287  
TEL (0790) 62-1200

飛石インテック Dept.  
〒0790 62-1200 山崎町山崎287  
TEL (0790) 62-1200

CREATIVE Dept.  
〒0790 62-1200 山崎町山崎287  
TEL (0790) 62-1200



◆最新型カラー現像機導入◆  
カラープリント・スピード仕上げ  
良い品を・安く・安心して買える店

# コーエーカメラ

Specialty Camera Shop

本 店 TEL (0790) 62-2089  
穴 粟 郡 山 崎 町 東 鹿 沢 26-3 咲 ラ ン ド 店 TEL (0790) 63-0533

料理旅館・割烹

創 業 菊 水  
文 久 元 年

兵庫県穴粟郡山崎町山崎287

TEL (0790) 62-1119(代)

壽 幸せへの旅立ちに――。

# ふじむら貸衣裳

穴粟郡山崎町山崎181 TEL (0790) 62-0052

くらしのメッセージいろいろ……

- 大切な年金、給与振込は **にしん** の自動受取で **あんしん**
- 素敵な暮らしのお手伝い **にしん** 個人ローンでお気軽にどうぞ

豊かな街づくりをお手伝いする



# 西兵庫信用金庫

TEL 0790-62-2020 (代)

本醸造  
龍神

しりた

ふるさとのお酒

清酒  
山陽  
盃

確かな品質

純米酒

さつ  
き  
一  
献

サンヨウハイ

山陽盃酒造(株) TEL (0790) 62-1010(代)



株式会社 **ミキモク**

兵庫県宍粟郡山崎町庄能120  
TEL (0790) 62-1238(代)  
FAX (0790) 62-5180

(株)ミキモク販売  
(株)マックス  
(株)ミキモク東京営業所  
埼玉県草加市氷川1234  
TEL 0489-22-5656  
FAX 0489-28-5450

株式会社 **九州ミキモク** 福岡県大川市向島字中開118 TEL (09448) 6-3418(代)  
株式会社 **タイミキモク** (本社)タイ国バンコック市ニューロード1173-4 FAX (09448) 6-3419  
TEL (02) 236-4694  
TEL (02) 236-7198  
TEL 0411-8612720  
FAX 0411-8613307

※安全で快適な生活をお届けする※

JOMO 株式会社 ジャパンエナジー 特約店

# ホンジヨウ

本社 兵庫県宍粟郡山崎町中井96 TEL (0790) 63-1234 (代)  
(0790) 62-4321 (代)